



重要文化財

矢田野エジリ古墳
出土埴輪の世界

巨大前方後円墳の誕生で古墳時代が幕を開けると、墳丘を豪華に飾る円筒埴輪や朝顔形埴輪が幾重にも立て並べられ、大王墓ではその数が1万本にも達したと考えられています。矢田野エジリ古墳の調査で確認された個体数は、円筒埴輪42個、朝顔形埴輪6個で、失われたものを含めると、総数で60本近い埴輪が立てられていたと考えられます。墳丘規模も埴輪の数も大王墓とは比べものになりませんが、この地域の人々にとっては、権威を示すモニュメントとして、視覚効果は大きかったと考えられます。



盛大に古墳を彩る
円筒埴輪

古墳を飾る円筒埴輪に加え、やがて死者の魂が宿る^{いえがた}家形埴輪や、それを守る武器・武具などの^{きざいがた}器財形埴輪が登場しました。そして、古墳時代の後半になって、ついに登場した人物埴輪群は、単に同じ人々が並ぶのではなく、様々な登場人物が描かれています。それはどのような舞台設定だったのでしょうか、いまだ定説はありません。それでも、当時の人々の息吹が伝わる魅力的な存在が人物埴輪です。



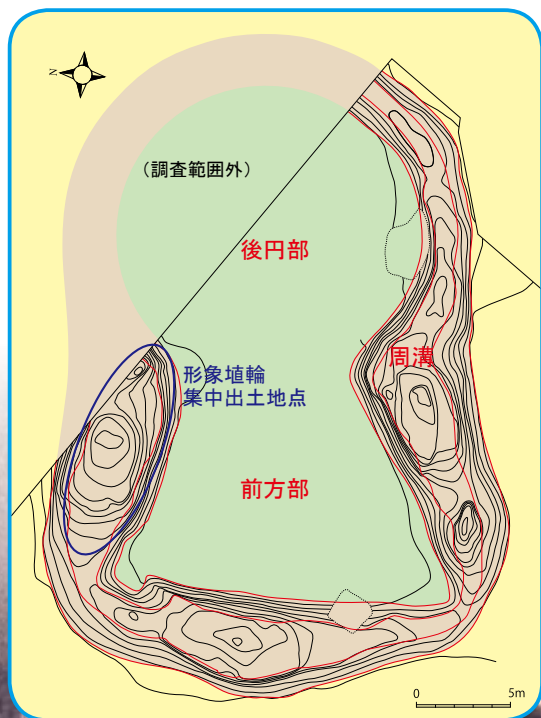
人物埴輪たちの
メッセージ

矢田野エジリ古墳の発見

矢田野エジリ古墳は、昭和63年（1988）、矢田野町（春日町）の宅地造成地で発見されました。JR栗津駅から線路沿いに南西へ約500mほど進んだ住宅街の中で、運動場として利用されていた平坦地です。その地下約1mに、全長約30mの前方後円墳が眠っていたのです。古墳の名称は昔の小字名「エジリ」から名付け、発掘調査を実施しました。墳丘や、埋葬施設はすでに削り取られていて、古墳のまわりをめぐる溝（周溝）だけの調査となりました。しかし、本来は墳丘に立て並べられていた埴輪の多くが、細かく割れた状態で溝に落ち込んでいたために、北陸では前例のない大量の埴輪発見につながりました。



矢田野エジリ古墳全景（南西方向から）

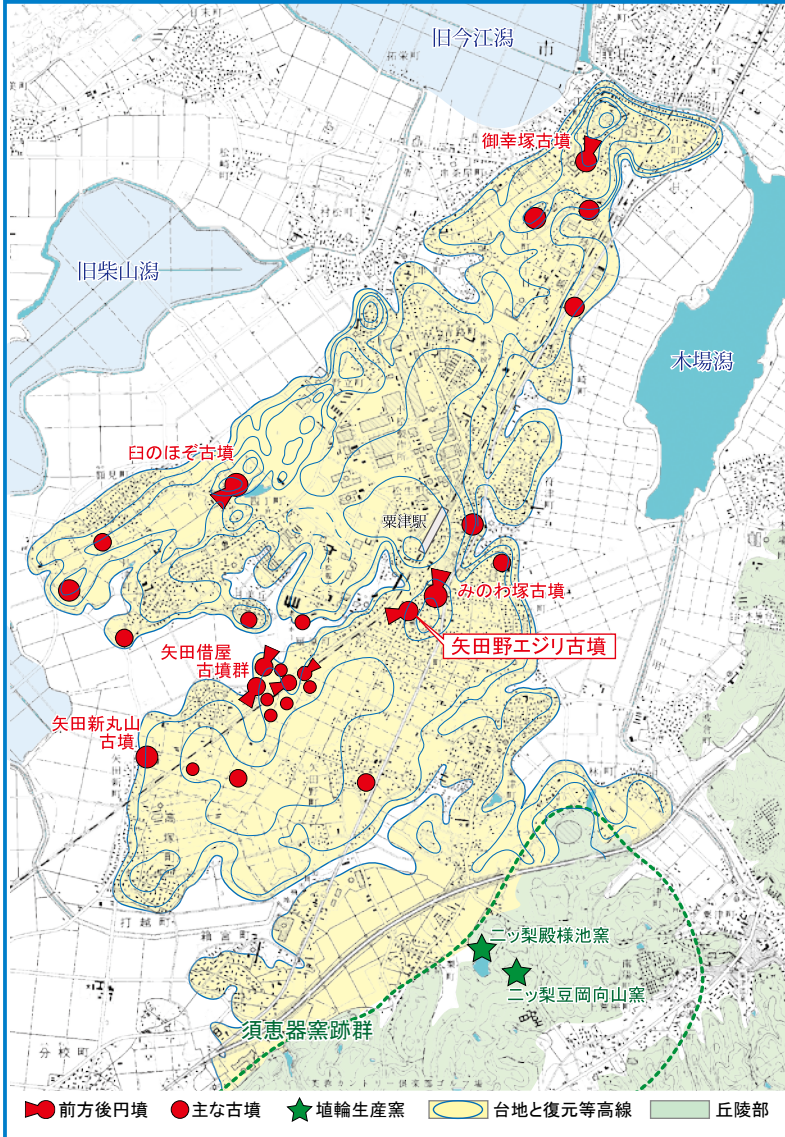


矢田野エジリ古墳の時代



矢田野エジリ古墳が築かれたのは、6世紀代（西暦500年代）の前半と考えられています。

南加賀地域では、古墳時代が幕を開ける4世紀代から、北の能美平野と南の江沼盆地という二つの穀倉地帯を地盤に有力者が成長し、それぞれの地域で古墳群を形成していました。ところが、6世紀に入る頃、突如、加賀三湖に囲まれた月津台地に新しく古墳群が誕生します（三湖台地域古墳群）。飛鳥時代へとつづく律令国家誕生前におこった南加賀地域の大きな変化です。矢田野エジリ古墳は、まさにその新しく成立した古墳群の中に位置します。



須恵器生産の開始

三湖台地域古墳

群成立と、ほぼ時を同じくして、戸津やニッ梨の丘陵地で、須恵器とよばれる渡来系の技術による陶器生産が開始されることも大きな変化です。製品は、古墳へのお供え物としても魅力的な器でした。技術提供の面では、大和王権も大いに関わったことでしょう。矢田野エジリ古墳の埴輪も、須恵器の技術を使用して製作されており、ニッ梨地区が生産地と考えられています。



6世紀前半の須恵器窯跡
(ニッ梨東山1号窯)

継体天皇の即位

西暦507年、越前の三国からヲホド王が大和王権の大王として即位します（継体天皇）。ヲホド王は越前から近江、そして尾張という、まさに日本列島を東西に分かつ境界線を地盤とした豪族でした。この即位は、のちに律令国家誕生へと導く天皇系譜の大きな転機となった出来事です。ヲホド王の祖母は江沼の女性と伝えられており、矢田野エジリ古墳が築かれた時代に起きたこの出来事は、加賀地域の勢力関係にも少なからず影響を与えたことでしょう。



矢田野エジリ古墳出土の須恵器

儀式をつかさどる巫女



この二人の人物には特殊な衣装が表現されています。片側の脇はU字形の袋状で、反対側は2枚の鱗のような表現です。これは、1枚の幅広で長い布を片方の脇から反対側の肩へと斜めにまわして結んだ袈裟けさと考えられています。また、髪型も独特で、束ねた髪を前後で折り返し、中央をリボンで結んでいます。島田髷しまだまげに似ていることから、古墳島田とも呼ばれています。

このような服装と髪型の人物は、神聖な儀式をつかさどる巫女みこと考えられています。両手を前に差し出す祈りの姿は、柏手を打つ、あるいは、何かを捧げ持つポーズともいわれています。



●袈裟衣の女子
復元高 67.5cm



●禪掛け袈裟衣の女子
全高 77.2cm

腕の孔は何の孔？

二人の腕には孔あながあります。これは、製作時のものです。粘土がやわらかい状態では、前に差し出した腕かんづうが下がってきてしまいます。そこで、両腕に横棒を貫通させて、真ん中で「丁」の字に支柱を支えたのです。



参列する貴人



墓前での様々な儀式には、新首長のほか、亡き首長と関わりの深い王族や、配下の高官、遠方からの使者などが参列していたことでしょう。

列点で飾られた鍔の無い冠帽を被る男子は、両耳の後ろに束ねた髪を垂らす「下げ美豆良」が表現され、首には丸玉を連ねています。

もう一人の男子は、頭部が波状で西洋の王冠のような表現がされています。高句麗壁画などに見られる被り物に似ており、この人物は渡来人かもしれません。当時、渡来人がふるさとの習俗を保った状態で、各地に居住していたことが知られています。



●天冠の男子
復元高 66.1cm



●飾り帽子の男子
復元高 73.4cm

美豆良

美豆良は、神話で登場する男子の髪型です。側頭部で「8」の字に束ねるのが「上げ美豆良」、お下げにして束ねるのが「下げ美豆良」です。全国の埴輪の例では、身分の高い男子像に下げ美豆良が結われていることが多いようです。



騎乗の従臣



馬具で飾られた馬と、馬とは別につくられた騎乗の人物、そして馬を曳く馬子（馬飼人）がセットで出土したことで、全国的な注目を集めました。

騎乗の人物は、右腕を真横に、左腕はやや前向きに垂らしています。大腿部より下は、焼成中に欠損してしまったようです。馬子の頭中央に見られる浅いくぼみは、真ん中分けした髪型の表現と考えられます。きらびやかな馬にまたがり、大切な儀式で隊列を組む従臣たちでしょうか。

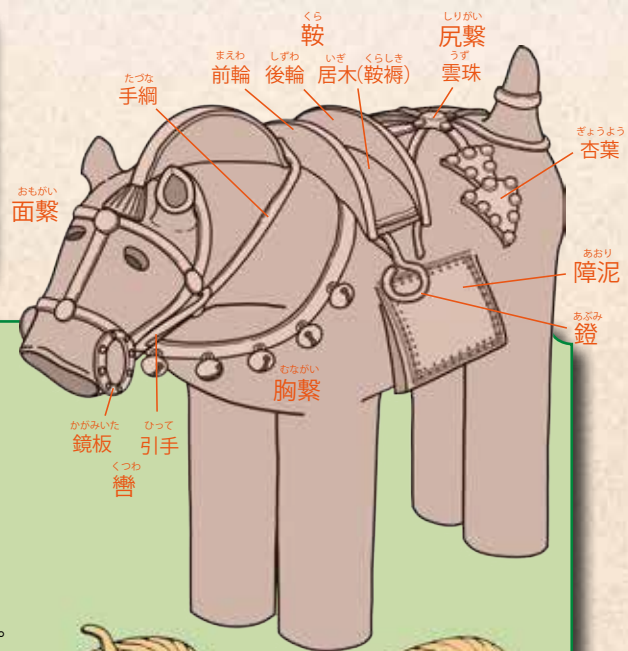


- 飾り馬2
全長 76.7cm 全高 65.0cm
- 騎乗の男子2
全高 39.0cm
- 右手を挙げる口髭の男子
くちひげ
復元高 63.5cm

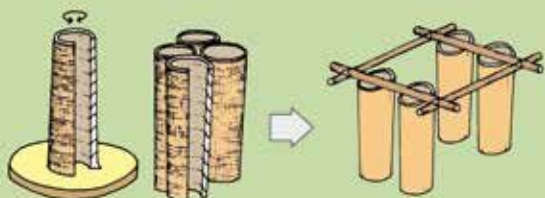
- 飾り馬1
全長 72.5cm 全高 64.0cm
- 騎乗の男子1
全高 41.5cm
- 右手を挙げる男子
復元高 64.6cm



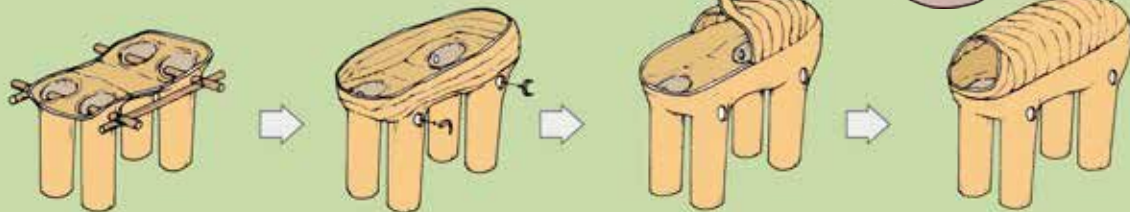
この二組は、それぞれに個性的です。馬子の一人は無精ひげをはやし、騎乗の人物では帽子に違いをもたせています。飾り馬は、馬具のセットとしては完全ではないものの、尻繫に付ける杏葉や雲珠などの装飾に違いをもたせています。一方、面繫の綱の付け方にまで違いをもたせたため、装着方法としては間違った表現になっています。



第1工程 円筒形の脚を製作し、棒を組んで脚の配置を決定。

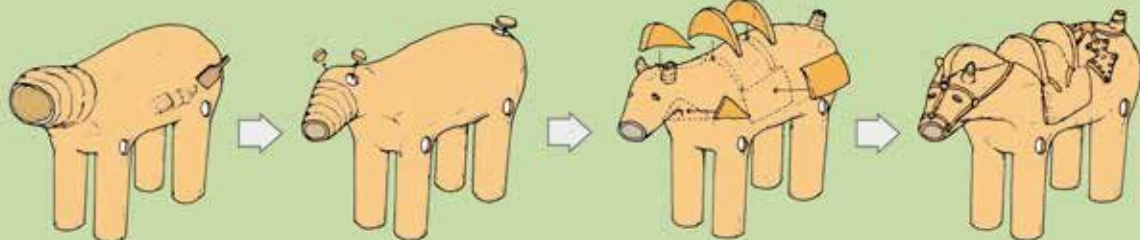


第2工程 脚を連結させた下腹から、粘土紐で順次胸部を成形。



第3工程 首から顔を粘土紐で成形。

第4工程 あごや、馬具などを取り付けて完成。



馬形埴輪の製作工程

儀礼に奉仕する女性



みこ
巫女の古墳島田を真横にした表現で、いわゆる
ちごまげ
稚児髷に似ています。こうした髪型の人物埴輪は例
が乏しく、巫女とは役割の異なる女性と考えられま
す。一人は胸に勾玉まがたまを、もう一人は腰に小さな刀
（刀子とうす）をつけています。刀子をもつ人物の衣裾ころもすそ
には鋸歯状きよしの線刻模様せんこくが描かれています。玉や刀剣は、
鏡とともに神聖な道具の一つであり、巫女に従うか
たちで儀式の中で大切な役割を担っていたのではな
いでしょうか。

挙げた手の所作は不明ですが、食物を盛る
うつわうつわを捧ささげ持っている例が知られています。舞
踊ぶの一場面かもしれません。



●勾玉をつける人
復元高 67.6cm



●刀子を佩おびる人
全高 76.6cm

入れ墨の女子？

勾玉をつけた女子の
目の下には、縦に深
い線まじが刻きまれていま
す。入れ墨いのようすみで



ですが、古墳時代では、女子像での入れ墨の例はとても珍しく、
これを男子像とする見方もあります。しかし、巫女像にも、
小鼻から「ハ」の字くまに開く線が描かれています。当時、顔に
赤や黒の塗料で隈取りくまのような化粧をすることが知られてお
り、そうした化粧を線刻で表したものかもしれません。

ひざまづく男子



基台の向かって右後ろには、足が表現されています。やや稚拙なつくりで、足の位置からみると、横座りのようにも見えますが、おそらく、ひざまづく姿を表現したものと思われます。

この座る男子像は、登場人物のなかでも特別な役割を担っていたことが想像されます。儀式の始まりを宣言したり、儀式の中で、亡き首長の業績を唱え、また、新首長に忠誠を誓うような大切な言葉をかきこまって奏上していたのかもしれませんが。



足の表現には慣れていなかったのか、まるで手と同じような表現です。

● 跪座の男子
全高 46.0cm

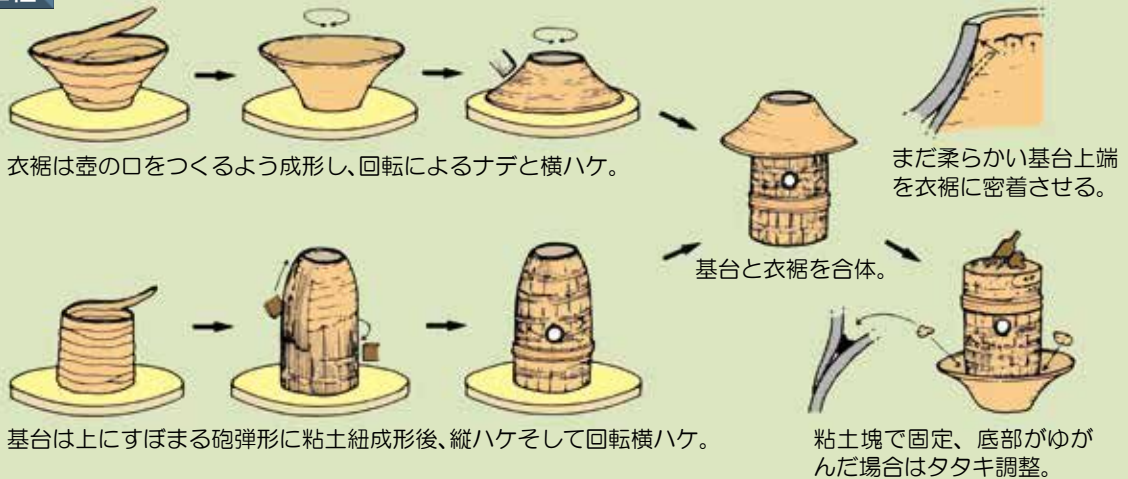
人物埴輪は、墳丘上での配列に重要な意味が込められていることが全国の調査例から研究されています。矢田野エジリ古墳では、すべての埴輪が割れた状態で周溝から出土しており、本来どのように並べられていたかは謎です。

しかし、ひざまづく役割の男子が一人、そして同じ性格の人物が2個一対となることから、2列の隊列を組むような場面も想定できるかもしれません。

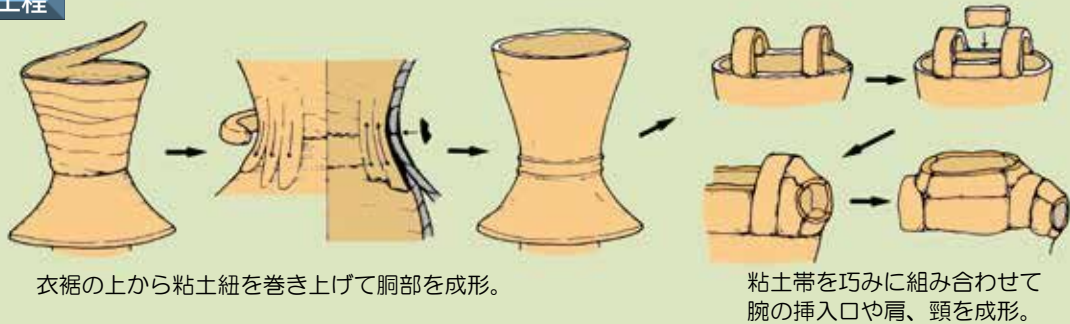


人物埴輪の製作工程

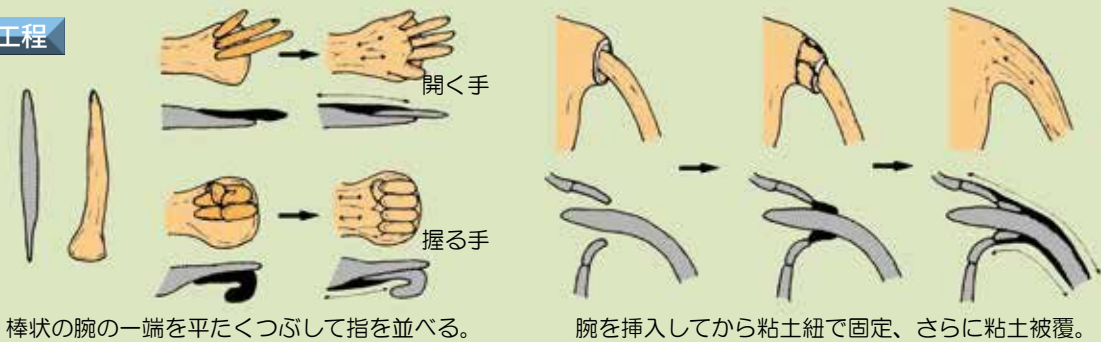
第1工程



第2工程



第3工程



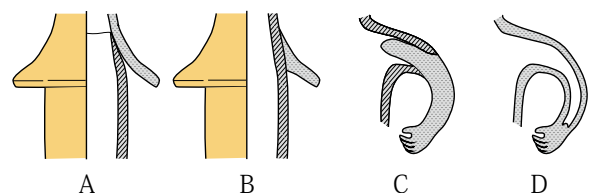
第4工程



製作技法の違い

人物埴輪の製作技法は全国共通というわけではありません。矢田野エジリ古墳の場合、基台と衣裾を別々に造って接合し、次いで衣裾の上から胸部を積み上げますが（A）、他地域の多くは、基台から胸部まで連続して粘土紐を巻き上げ、あとから衣裾だけを貼り付けます（B）。

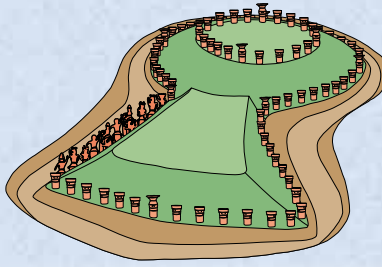
また、腕の作りでは、矢田野エジリ古墳は棒状のものを差し込むかたち（中実技法）ですが（C）、畿内



を中心とした地域では、腕も胸部と同じように空洞につくる（中空技法）場合が多いようです（D）。

円筒埴輪と朝顔形埴輪

円筒埴輪の起源は人物埴輪よりも古く、弥生時代後期にさかのぼります。もともとお供え用の壺をのせる器台でした。とりわけ岡山県域の器台は大型で、胴部には帯や文様を巡らせており、特殊器台といわれています。これが円筒埴輪のルーツです。その後、古墳時代が幕を開けると同時に、特殊器台から進化した円筒埴輪が誕生します。初期の円筒埴輪には、器台の名残から壺がのせられました。しかしほどなくして壺と円筒が一体となった朝顔形埴輪が成立します。この円筒埴輪と朝顔形埴輪が、古墳を飾る基本セットとなります。



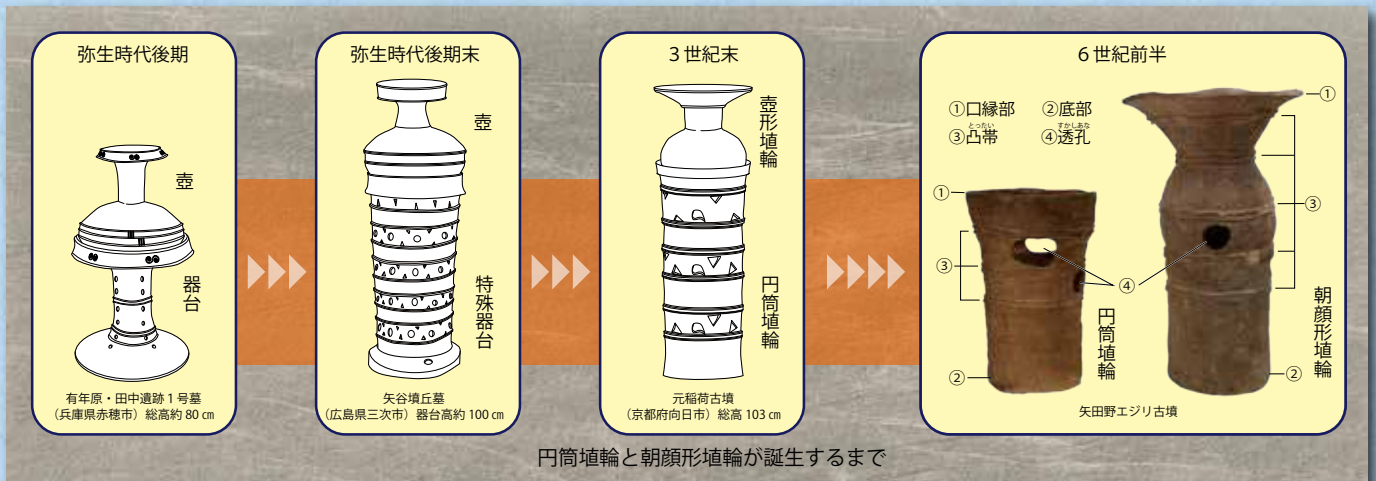
円筒埴輪

●円筒 1
高 46.6cm



朝顔形埴輪

●朝顔 1
高 70.2cm



円筒埴輪の特殊な製作技法



円筒埴輪の製作は、通常、底の方から粘土ひもを巻き上げながら、上に向かって少しずつ開く筒形に仕上げていきます（正立成形）。ところが、矢田野エジリ古墳の円筒埴輪の大部分は、約3分の2の高さまでを上に向かってすぼまる逆さの状態

ます。特に尾張^{おわり}地域との関係の深い地域で発見されており、また、韓国で発見された埴輪にも、同様の技法が確認されています。



第1工程



粘土紐巻き上げ



外面タテハケ後
内面ナデ調整



第1・第2凸帯貼付

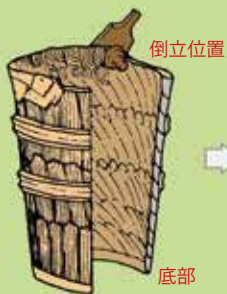


底部側成形
(図の上縁が完成後の底部)

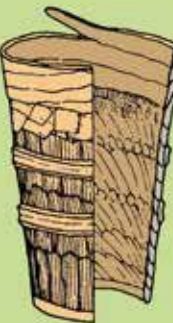


外面タテハケ後
底部ナデ調整

第2工程



上下逆転後、倒立
位置をタキ調整



口縁部側成形



外面ハケ調整



内面ナデ調整と
第3凸帯貼付



口縁部ナデ
透孔の穿孔

倒立技法による円筒埴輪の製作工程



第1工程で下底面だったところは器肉が厚く、たわみも生じています。倒立後、その部分（倒立位置）には「タタキ」という須恵器の調整技法が使われるので、内面に同心円の当て具のあとが残されます。

内面に同心円文の道具を当て、外面から羽子板状の道具で叩いて整形します。

底部の違いでわかる3つの成形技法



●丸筒9 高 49.9cm



●丸筒14 高 52.6cm



●丸筒13 高 51.1cm



倒立技法でつくられた丸筒9の底部は、第1工程で丁寧にナデ調整されているので、口縁部と同じような仕上がりです。正立状態で下から積み上げる丸筒14は、底部がL字に屈曲して平らな面になっています。丸筒13も正立状態で積み上げるものですが、底部に輪型を使った痕があります。紀伊地方を中心にみられる特殊な技法です。

埴輪をつくった工人たち



円筒埴輪の表面をよく見ると、「ハケ目」と呼ばれるたくさんの筋が見えます。これは、木のヘラをつかって表面を整えた痕^{あと}です。実は、ハケ目はヘラのもっている木の年輪の筋なのです。

円筒埴輪のハケ目をよく観察すると、筋の間隔、つまり年輪の間隔に違いがあることがわかります。この年輪の違いは、工具の違いでもあるわけです。

矢田野エジリ古墳の埴輪を分析した結果、ハケ目が違うと細かな手法や作風も違うことが確かめられました。一人の工人^{こうじん}が専用のハケ工具で製作していたことになります。約10人の埴輪工人が想定されていて、製作技法とハケ目の違いをもとにIA1などの分類番号を付けています。



IA1工人の使った
細かいハケ目



IC工人の使った
粗いハケ目



木の板を使った工具で粘土を削るとあらわれるハケ目



ヘラ記号

ハケ工具の分類によって判明したIA1工人の作品には、木のヘラで描かれた「W」のような記号が付けられていることがわかりました。IA1工人とIB1工人は、倒立時に使う工具を共有しているので、二人が同じ場所で一緒に製作していたようです。ノルマがあったのでしょうか、二人の作品を区別するために、IA1工人の方は、自分の作品に記号を付けたと考えられます。



●陶筒 11
高 52.2cm

I C1 工人製作の円筒埴輪



●陶筒 6
高 52.5cm

I A2 工人製作の円筒埴輪



●陶筒 10
高 54.7cm

I B2 工人製作の円筒埴輪



●陶筒 13
(前掲)

II A 工人製作の円筒埴輪



●陶筒 15
高 50.5cm

II B 工人製作の円筒埴輪

記号先頭の I は倒立技法の円筒埴輪製作者を示していますが、この中で、倒立技法の第 1 工程と第 2 工程で、使うハケ工具が異なるものが見られます。たとえば I B 2 工人の製作した陶筒 10 は、倒立前の第 1 工程は別の工人が製作していたのです。

また、朝顔形埴輪でも、朝顔 2 の第 1 工程は陶筒 6 を製作した I A 2 工人が製作し、倒立後に、別の工人が朝顔部分を製作しています。朝顔 1 も上下で別々の工人が製作しています。つまり、一つの埴輪でも、複数の工人が分担して製作していたことになります。

埴輪の製作者たちに想いをはせる



埴輪は、首長の古墳築造に際して、特別発注される場合が多かったことでしょう。^{きゆうきよ}急速、工人たちが集められ、工房は大忙しだったのかもしれませんが。特に今回は、これまでにない人物や馬の大量発注だったのですから。

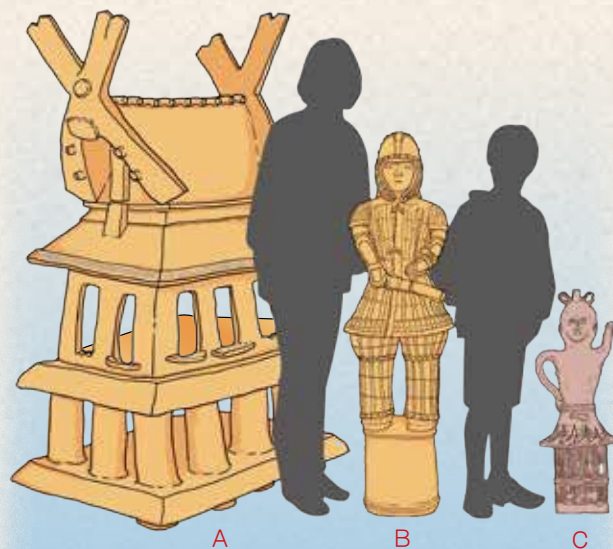
出土した埴輪を細かく分析すると、技術が違ふ工人たちの存在や、工人ひとりひとりのクセまでもがよみがえってきます。さらには、技術的なつながりから、他地域との^{れんけい}連携や、政治的な関係にまで研究が発展する可能性もあります。それが、埴輪研究のもう一つの大きな魅力といえます。

よくある疑問・質問

こんなに大きいものなの？ 埴輪の大きさ

埴輪の大きさはどのようにイメージしていただいでしょうか？矢田野エジリ古墳の人物埴輪は、大きいもので約77cmをはかります。埴輪の実物をご覧になると、みなさんその大きさに驚かれます。しかし、この大きさは、全国的には決して大きい方ではありません。国宝になっている有名な**武人埴輪**は、台を含めた全高が約130cmもあります。継体天皇陵と考えられている**今城塚古墳の家形埴輪**に至っては、全高170cmをはかり、大人の背丈ぐらいあります。

学校の教材などでは、縄文時代の土偶と同じような大きさになっているため、製作された時代も目的も、そして大きさもまったく異なる両者の区別について質問されることがよくあります。



A：大阪府高槻市今城塚古墳出土家形埴輪（170 cm）
B：群馬県太田市飯塚町出土武人埴輪（130.5 cm）
C：矢田野エジリ古墳出土人物埴輪（76.6 cm）

このまま出土したの？ 埴輪の復元

古墳に立て並べられていた埴輪が、そのまま出土することは非常にまれです。矢田野エジリ古墳の場合は、割って片付けたのではないかと感じるほどに細かい破片でした。それも、円筒埴輪やいろんな人物の破片が混ざった状態で、発掘調査中は人物埴輪の数はもとより、馬形埴輪の存在すらわかりませんでした。実際は「接合してみると馬や人物の形になっていった」のです。模様などの決め手が少ないうえ、失われてしまった部分も多く、すべてのパーツがそろっているわけではありません。微妙な色の違いなどを頼りに、地道な接合作業が行われました。



円筒1の破片とその復元作業



飾り馬1の破片とその復元作業



お
刀子を佩びる人の
破片とその復元作業

矢田野エジリ古墳出土埴輪の3D データについて

矢田野エジリ古墳出土の埴輪たちは、埋蔵文化財センターでは、いつも展示しているわけではなく、企画に応じて展示室に並びます。全部並ぶときもあれば、5個体のみのときも・・・埴輪は基本、正面に向けて並べるので、後ろからみた様子や真上、下からのぞきこむことはなかなかできません。

そこで、埋蔵文化財センターのホームページでは、冊子で紹介している一部の形象埴輪の**3D データ**を公開しています。acrobat reader (アクトバットリーダー) をダウンロードして、いろんな角度から埴輪をお楽しみください。

QRコードを読み取ると、埋蔵文化財センターホームページ内の「埴輪3D映像の公開について」にジャンプします。



みれる埴輪は7種類。
データが重くて動きが鈍い場合は、
下記のデータをパソコンに
「名前をつけて保存」
した上で楽しもう!!



更新日：2018年11月30日

埴輪をいろんな角度で見よう!- 埴輪3D映像の公開 -

埴輪3D映像の公開について

平成27年度「市内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」として文化庁補助金の交付を受けて、矢田野エジリ古墳出土埴輪の3Dモデルを作成しました。
平成28年度に同じく文化庁補助金の交付を受けて、矢田野エジリ古墳出土埴輪の3Dモデルを追加しました。

楽しむ方法

3D PDF ファイルはアドビアクトバットリーダー（バージョン7.0.8以上）、アドビアクトバットプロフェッショナル（バージョン9.0以上）で表示可能です。

ダウンロード用PDF

- [右手を挙げる男子 \(PDF: 5.6MB\)](#)
- [騎乗の男子1 \(PDF: 2.5MB\)](#)
- [飾り馬1 \(PDF: 11.0MB\)](#)
- [騎乗の男子1+飾り馬1 \(PDF: 12.8MB\)](#)
- [襷掛け袈裟衣の女子 \(PDF: 34.4MB\)](#)
- [天冠の男子 \(PDF: 15.9MB\)](#)
- [飾り帽子の男子 \(PDF: 17.1MB\)](#)



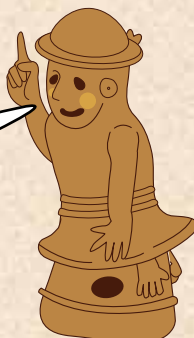
騎乗の男子1+飾り馬1

飾り馬1



天冠の男子

画面の埴輪をぐるぐる
回すと
後姿や足元からもみる
ことができますよ!



◆矢田野エジリ古墳出土埴輪の歩み

- 1988年（昭和63） 宅地造成に伴う発掘調査（8月8日～10月19日）
- 1989年（平成元） 出土品整理
- 1989年（平成元） 小松市指定文化財（考古資料）
- 1992年（平成4） 発掘調査報告書刊行
- 1994年（平成6） 石川県指定文化財（考古資料）
- 1997年（平成9） 重要文化財（考古資料）一括指定
- 1997年（平成9） 重要文化財指定記念特別展開催（小松市立博物館）
- 2006年（平成18） 復元30個体の保存修復事業開始
- 2012年（平成24） 保存修復事業完了
- 2012年（平成24） 修復完了記念特別展開催（小松市埋蔵文化財センター）



◆引用参考文献

小松市教育委員会『矢田野エジリ古墳発掘調査報告書』1992年

若狭 徹『もっと知りたい埴輪の世界 - 古代社会からのメッセージ -』2009年 東京美術

群馬県立歴史博物館『開館30周年記念展 国宝武人ハニワ、群馬へ帰る!』2009年

◆協力者・協力機関

〈形象埴輪写真撮影〉田邊朋宏（福井市役所）

〈修復状況写真提供〉株式会社 京都科学



重要文化財 矢田野エジリ古墳出土埴輪の世界

発行日 令和2年3月19日（増訂版）

編集・発行 小松市埋蔵文化財センター

〒923-0075

石川県小松市原町ト 77-8

TEL 0761-47-5713

印刷 マルト株式会社

